

平成30年8月19日
今週のベストショット



青松園B レッドサンデーズ 対 三苦三球会戦

三回裏、三苦三球会の九番渡辺選手が同点の足掛かりとなる三塁打を放つ。

写真：新町ウインズ 早田 主大

奈多グラウンド 三苦ホーネッツ 強力打線と堅守で勝利！

三苦ホーネッツ（7勝1敗1分） 4 1 3 2 0 1 0 川原○ー広木

三友クラブ （1勝8敗） 4 0 0 0 0 4 矢野●ー谷崎

HR：堺（恭）（三苦ホ） 3BH：木村（三友ク）広木、矢野（三苦ホ）

2BH：川原（三苦ホ）尾澤（三友ク）

一回表、三苦ホーネッツは四死球もあり一死満塁から五番川原選手の2点タイムリーで先制。その後、バッテリーミスもあり計4点を挙げ、主導権を握ったかに見えた。しかし一回裏三友クラブは、一番平田選手、二番坂本選手がヒットで出塁し、四番尾澤選手が2点タイムリー、その後相手守備のミスも絡み4点を奪い返す拮抗した試合展開となった。二回表 三苦ホーネッツは二死から一番堺（恭）選手のソロHRで1点リード。三回表、三苦ホーネッツ四番広木選手から始まる打線はヒットでランナーを出し二死から八番三浦選手の内野安打で1点、次の九番代打で出た松尾選手が2点タイムリーで計3点を追加。四回表、三苦ホーネッツ三番稲葉選手、四番広木選手で更に2点を追加し三友クラブを突き放すと、そのまま五回で試合終了となった。敗れた三友クラブは初回こそ打線をつなぎ4点を奪ったが、それ以降追加点が取れなかった。勝利した三苦ホーネッツは短打と長打がうまく噛み合った。また、代打の選手がタイムリーを打つなど選手層の厚さも伺えた。守備の方も初回こそ4点を取られたが、二回以降は堅守で追加点を許さなかった。なかでもキャッチャーで四番の広木選手はチームの流れを変える堅守とバッティングだったと感じた。（記事：奈多クラブ 高瀬 大輔、写真：久保 隆司）



ホーネッツ先発の川原投手。



三友クラブ先発の矢野投手。



一回表、いきなりのデットボールで出塁した塚(恭)選手。



一回表、先制のタイムリー二塁打を放つホーネッツ川原選手。



一回裏、タイムリー二塁打を放つ三友クラブ尾澤選手。



二回表、ライトへ突き刺さるHRを放つホーネッツの塚(恭)。



三回表、全力疾走で内野安打を勝ち取る三浦選手。



三回表、全カプレーも惜しくも届かないセカンド山崎選手。



五回表、意地の三塁打を放った三友クラブ木村選手。



今日のヒーロー川原投手とホームランを放った堺(恭)選手。

青松園B 好試合！！先に追加点を取るチームは・・・

レッドサンデーズ (3勝5敗) 1000000 1 塚本●ー八島
 三苦三球会 (5勝3敗) 001002× 3 池上○ー吉留

3BH : 八島(レッド) 渡辺(三球会) **2BH** : 堺(達)(三球会)

盗塁 : 田浦、川原(正) 2、木寺、神田(レッド) 濱口(三球会)

先攻のレッドサンデーズは一回表、二番近藤選手のバントが相手エラーを誘い、パスボール3つで無安打で先制点をもぎ取る。続く二回表には木寺選手のセンター前を皮切りに二死二三塁と追加点のチャンスを作るが、無得点に終わる。同点に追いつきたい三苦三球会は二回裏に六番松尾選手、七番池上選手の連続センター前で二死一三塁と一打逆転のチャンスを作ったが、レッド先発塚本投手の前に無得点に抑えられる。三回裏、三球会九番渡辺選手が左中間に三塁打を放つと、途中から交代した一番衛藤選手の右犠飛で同点に追いつく。四回以降レッドは、ショート神田選手を中心に堅守でチームを盛り上げるのに対し、先発の池上投手の奪三振で好機を伺う三球会の息詰まる熱戦が繰り広げられる。六回裏、均衡を破ったのは三球会。二番堺(達)選手がピッチャー強襲のヒットで二塁に達すると、三番濱口選手の中前タイムリーで勝ち越し。更に一死三塁として五番堺(太)選手のライト前タイムリーでこの回2点目を挙げ勝負あり。この試合レッドは二、三、四、六回とランナーを三塁まで進め、追加点のチャンスがあっただけに悔やまれると共に1点の重さを感じた。また、三球会先発の池上投手は16三振を奪う圧巻のピッチングを魅せた。(記事：新町ウインズ 大久保 浩、写真：早田 主大)



試合前風景



16奪三振の三苦三球会先発、池上投手。



一回表、見逃し三振で悔しがるレッド川原選手。



一回表、近藤選手がヘッドスライディングで先制。



二回裏、チーム初安打を放った三球会六番松尾選手。



三回表、送りバントを決めたレッド二番近藤選手。



三回裏、試合の流れを変える三塁打を放った渡辺選手。



犠牲フライで渡辺選手が同点のホームイン。



ボールに食らいつくレッド五番前田選手。



戦況を見つめる三球会ベンチ。



六回表、背走しながら捕球を試みるセンター濱口選手。



六回表、中越え三塁打を放ったレッド四番八島選手。



六回裏、先頭で二塁打を放った堺達也選手。



逆転打を放った堺太一選手。

青松園A 手に汗握る緊迫した接戦は最終回到ドラマが！

三苦フレンズ (8勝1敗) 0001201 4 山口○-佐藤(由)

奈多サンデーズ (3勝5敗1分) 0300000 3 砂場●-野々下

HR: 生野(三苦フ) 2BH: 野々下(奈多サ) 盗塁: 山口(三苦フ)

まだまだ蒸し暑さが厳しい朝。両軍ともに入念な準備と作戦の打ち合わせを行い、試合開始を待つ。定刻7時にプレイボールが宣誓されて試合が始まった。先発は三苦フレンズが山口投手、奈多サンデーズが砂場投手。好投手の投げ合いで1点差勝負の緊迫した投手戦が予想された。一回表の三苦フレンズの攻撃は2三振を奪い三者凡退と砂場投手の素晴らしい立ち上がりとなった。一回裏の奈多サンデーズの攻撃も同じく2三振を奪い三者凡退と山口投手も素晴らしい立ち上がりを見せた。試合が動いたのは二回裏の奈多サンデーズの攻撃。先頭打者の四番野々下選手がレフト前ヒットで二塁まで激走。続く五番宮口選手はセカンドエラーで出塁して無死一三塁の絶好の先制のチャンス。ここで六番近藤選手がレフトにヒットを放つと、それを左翼手が後逸して打者走者も生還して一挙3点を奪った。四回表、三苦フレンズの逆襲が始まる。先頭の三番生野選手が四球を選び出塁。続く四番山口選手がライト方向にヒットを放つと、一塁から生野選手が一気に生還する好走塁で1点を取り返した。山口投手の好投に応えたい三苦フレンズは1-3で迎えた五回表、一死後、一番吉村(雄)選手がセンター前ヒットで出塁、二番佐藤(由)選手のセカンドゴロで走者を二塁に進めた。二死二塁のチャンスで走・攻・守でチームを牽引する三番生野選手を迎える。好投手砂場投手の球をしっかりと振り抜き、センターオーバーのランニングHRで3-3に追いつく価値あるキャプテンの一打となった。六回は砂場投手と山口投手の両エースの投げ合いで無得点で終わり、最終七回到ドラマが待っていた。七回表の三苦フレンズの攻撃は先頭の一番吉村(雄)選手がセンター前ヒットで出塁、続く二番佐藤(由)選手の時にエンドランを仕掛けランナーを二塁に進める。

パスボールで三塁まで進み、この日の殊勲選手である三番生野選手を迎える。生野選手の打球はセカンドゴロとなり三塁ランナーが生還して4-3と逆転に成功した。その裏の奈多サンデーズの攻撃は二死二三塁まで攻めて山口投手を追い詰めたが、あと1本が出ずにゲームセット。三苦フレンズの山口投手と奈多サンデーズの砂場投手の両エースの投げ合いは迫力がありました。また、三苦フレンズの生野選手はキャプテンとして走・攻・守と活躍して選手にもよく声を掛けて士気を高めていたのが印象的でした。生野キャプテンの行動を見ていて三苦フレンズの強さを実感しました。白熱した素晴らしい試合でした。両チームの皆様ありがとうございます。

(記事・写真：和白新町パイレーツ 田村 正博)



火花を散らす両監督。



打っても3安打のフレンズ山口投手。



足を痛めても気迫を魅せた山口投手。



二回表、ヒットを放った御手洗(文)選手。



二回裏、二塁打を放ったサンデーズ四番野々下選手。



二回裏、痛烈なライト前ヒットを放った宮口選手。



3点の先制打を打ったサンデーズ近藤選手（右）。



三回表、ヒットを放ち貢献した江口選手。



走・攻・守に貢献したフレンズ生野（拓）選手。



本日の投打のMVPの二人。

雁レク4 終盤に…

ブルーマーリンズ（0勝8敗） 1 2 0 0 0 3 佐藤●ー横山（健）

奈多フェニックス（5勝3敗） 3 0 0 0 3 6 太田○ー実延（新）

盗塁：福島、実延（彰）（奈多フ）

ブルーマーリンズは一回表、俊足の一番見玉選手が内野安打を放つと失策や捕逸などで無死三塁とする。続く二番末松選手が左前安打を放ちブルーマーリンズが先制をする。先制を許したフェニックスであったが一回裏、連打と相手の失策もあり3点を奪いあっさり逆転。この調子で試合を優位に進めていきたいフェニックスだが、二回表、ここでフェニックス先発の太田投手が制球難に苦しみ、四球と味方の失策もあり無安打ながらも2点を奪われ、同点に追いつかれてしまう。しかし、この回以降は両軍投手の調子も上がってきたのか走者は出すものの、得点は与えず同点のまま五回へ。ブルーマーリンズは五回表、四死球で一死一二塁と勝ち越しのチャンスだったが八番小柳選手は左飛、九番横山（祥）選手は遊ゴロに倒れ、得点を挙げるができない。そして五回裏、ここまで好投を続けてきたブルーマーリンズ先発佐藤投手であったが先頭の四番香山選手に四球を与えると走者を進めてしまい暴投で生還させ、勝ち越されてしまう。さらに途中出場の八番今林（英）選手に犠飛を放たれこの回2点目。そして失策で3点目を奪われたところで時間切れとなり試合終了。フェニックス先発の太田投手による粘り強い投球が勝利を呼び込んだ。（記事：雁の巣ライナーズ 明瀬 旭 写真：宇野 元康）



一回表、先制の左前安打を放つBマーリンズ二番末松選手。



一回裏、フェニックス三番能丸選手は失策を誘い同点に。



一回裏、適時打を放ったフェニックス四番香山選手。



二回表、押し出し同点のホームを踏むBマーリンズ小柳選手。



ブルーマーリンズ七番浜崎選手の絶妙なバント。



粘り強い投球で勝利したフェニックス太田投手。

第16週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第16週、8月19日は4試合が行われました。

奈多グラウンドの三苦ホーネッツ対三友クラブ戦は、三友クラブを苦手になっているホーネッツは4点先制してもすぐに4点取られる親な展開だったが、この日は二回以降も点を重ねたホーネッツ。一方三友クラブはランナーを出すも無得点に抑えられ10-4でホーネッツの勝利。きもんの三友クラブを撃破した。

青松園Bのレッドサンデーズ対三苦三球会戦は、先制したレッドサンデーズが次の1点を取るのに攻めあぐねている間に三球会は三回裏に渡辺選手の三塁打から同点、六回裏には同級生の堺達也選手のピッチャー強襲打から逆転した。投げでは16奪三振の池上投手が追加点を許さず1-3で三球会の勝利。

青松園Aの三苦フレンズ対奈多サンデーズ戦は、二回裏にサンデーズ近藤選手のヒットがレフトエラーを誘い3点リードする。しかしフレンズは四回に1点、五回に2点を取り追いつく。残り3分となってサンデーズは引き分けよりはフレンズ山口投手との決着を望んだ。1点を失ったが、二死二三塁で一打サヨナラのチャンスを作ったが、フレンズが4-3で逆転勝利。サンデーズ砂場投手はここで投げ勝てば自信になっていたかもしれない。

雁レク4のブルーマーリンズ対奈多フェニックス戦は、四回を終わって3-3。五回のピンチを凌いだフェニックス太田投手に対し、ブルーマーリンズ佐藤投手は四球、内野安打、失策等で3失点で万事休す。3-6でフェニックス勝利。ブルーマーリンズは初勝利のチャンスがあったが、次回に持越しとなった。

まだまだ暑い早朝ですが、どこも熱い戦いが繰り広げられています。

この調子で後半戦も盛り上がっていきましょう！